



月の光奉賛会

令和元年12月12日 満月の日

海神神社・和多都美神社での御神事

日時：12月12日の満月の日か、前後日

場所：峰町の海神神社

場所：仁位の和多都美神社

大嘗祭がつつがなく執り行われ、次の時代に歩み始めています。

大嘗祭が行われる前日 11月13日に「はやぶさ2」はリュウグウから地球に向けて帰還を開始しました。「はやぶさ2」は、次の時代を始動させる試料を2020年11月に持って帰ることになっていて、地球に帰還した翌年2021年1月1日の天皇陛下の四方拝から、言葉の力が全ての人に解き放たれます。無事に次の時代に入れるように祈念したいと思います。

■御祈願の趣旨■

御皇室の弥栄と日本各地の宮司様の弥栄を祈り、世界の平和を祈念し、そういう活動を支えられる地域経済の繁栄を願います。

宮司様到大祝祝詞を奏上していただき、参列者で教育勅語を奉唱します。

■「月の光奉賛会」とは■

「月の光奉賛会」とは、日本神話の源流をなす伊邪那岐命と伊邪那美命の国生みの島々、神話に由来する島々を顕彰する奉賛会です。代表を務める成田亨は、平成7年(1995年)の阪神淡路大震災以降、家族で日本各地の1500カ所以上の神社を参拝してきました。

御神職の方々その先には、天皇陛下がおられるものなので、平成から令和への御代替りにあたって、こういうことが自覚できるように御神事をやっていくことを目的として設立しました。

月の光奉賛会の名称で、玉串料をお送りします。

みなさまの地元の神社の宮司様に對馬のチラシをお渡し、そして、地元の神社に玉串料を納め、對馬に合わせた御神事を願います。

■海神神社と和多都美神社■

海幸彦・山幸彦で有名な彦火火出見尊の時代に、海宮があった島が對馬で、現在の海神神社が海宮の場所です。山幸彦といわれた彦火火出見尊が、兄の海幸彦の釣り針を無くしたため、塩椎神の助言で、海神の宮殿に行きました。そして、海神の宮殿で、豊玉毘売命と結婚し3年を過ごしたのです。

彦火火出見尊は兄の釣り針を探していたことを思い出し、海神に告げます。海神が魚たちを集め、釣り針を持っている者はいないかと問うと、赤鯛の喉に引っかかっているとわかりました。

赤鯛のこの功績により、鯛には「魚の王様」という称号が与えられ、「めでたい」の代名詞となりました。

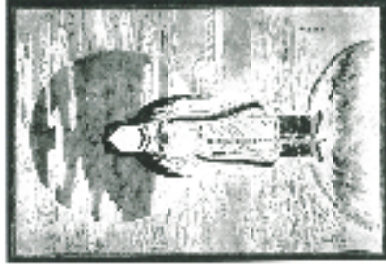
実は、海にいる「鯛」は「國體」を現しており、神苑の池にいる「鯉」は人の団体(「政體」)を現しています。

海幸彦・山幸彦の物語は、この鯛(國體)の管理者が海神である、と語っているのです。つまり、彦火火出見尊の時代以降、皇統を維持するには對馬の神々の協力が必要になっていったのです。

また、豆殿に伝承されている「天童」は、地球の大天変地異があった時代、伊勢の天照大御神さまを陰ながらサポートするために龍良山(たつらさん)に降臨された天照皇大御神さまの御姿です。

天照皇大御神さまは、神様として降臨されたのではなく、「童(男の子のわらべ)」として降臨されているので、特別に對馬では「天童」と尊称してきました。

度重なる変転によって、現在では、「天童」と「天道」が混同、習合し由来が失われています。



平成から令和への御代替りに当たって、遠い神代の昔から古代、近現代史において對馬の果たした役割に思いを馳せ、満月の日か、その前後に祈りを捧げたいと思います。

＜ 月の光奉賛会 代表 成田亨 ＞

〒177-0033 東京都練馬区高野台 1-23-30 ガーデンコート高野台 805

携帯 080-9175-4666 メール naritatoru@gmail.com